

教育研究業績書		
令和 3 年 3 月 31 日		
氏名 千原 智美		
研究分野	研究内容のキーワード	
幼児教育	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達 ・子供の成長と言葉の関係 ・教区実習における 	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例	平成 29 年 4 月 ～	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において配布する資料を作成し授業や復習に活用できるようにしている。またオフィスアワーや面談などで学生からの質問や指導案作成の相談を随時受け付け、指導を行っている。 ・視聴覚教材を製作し模擬保育を行ったり、幼児の活動映像や写真から幼児の行動の読み取りを行い幼児理解につなげたりして、保育力の向上を図った。 ・保育現場に生かせるよう情報機器の操作と技術を学び、視覚的な教材作りや授業資料作成を行い、遠隔授業に活用した。
2. 作成した教科書、教材		特記事項なし
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	平 29 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度前期授業「保育内容言葉」「保育カリキュラム論」の学生による授業評価（平均 4） 「聞き取りやすく内容がわかるように工夫されていた。」また、「学生の質問等にも適切に対応されていた」という学生によるアンケート結果であった。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 20 年 4 月 平成 25 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務する公立幼稚園において大学や短期大学からの教育実習生を受け入れ、指導案や保育の指導を行った。（平成 29 年 3 月まで） ・研究発表（兵庫県教育委員会教育懇談会において） テーマ「地域とつながり育つ子ども」 阪神地区の代表として尼崎市立富松幼稚園の取組を発表した。富松地域の伝統行事（節分、秋祭り等）や伝統野菜（富松一寸豆）の栽培を年間計画に組入れ子どもと保

	平成 30 年 9 月	<p>護者と地域の人と一緒に活動を行った。子ども達は自ら体験し、そのことを言葉や絵で表現し伝え合うことが表現する力や豊かな心、人と関わる力の育成につながった。また地域への愛着を感じ地域を誇りに思う気持ちにつながり、“富松の子ども”として見守られ育つことにつながる。</p> <p>・兵庫県立尼崎高校との高大連携講座にて保育の仕事について講義をした。</p>
5. その他	平成 25 年 6 月	兵庫県教育委員長との教育懇談会において、阪神地区の幼稚園の取組について発表する。

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	昭和 53 年 3 月 平成 22 年 1 月 昭和 53 年 3 月	幼稚園教諭 1 級免許状（兵庫県教育委員会昭 52 幼一普第 347 号） 更新講習修了（平二一第五七九号） 保育士（兵庫県—007889）
2. 特許等		特記事項なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 29 年 11 月	<p>甲子園短期大学において FD 研修会の講師 テーマ「幼稚園教育要領の改訂と再課程認定について」</p> <p>内容 ・平成 30 年度より改訂される幼稚園教育要領の主なポイントである「環境を通して行う教育を基本とすることは変わらない」こと、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」について説明を行った。</p> <p>・教育職員免許法・同施行規則の改正及び再課程認定の経緯と再課程認定の内容と進捗状況について説明を行った。</p>
4. その他		特記事項なし

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

<p>その他 (教育実践記録等) ・活力ある学校園づくり 「地域と共に育つ子どもたち」</p>	<p>単</p>	<p>平成 25 年 3 月</p>	<p>教育あまがさき第 71 号</p>	<p>・目指す子ども像を「地域との活動の中で自然体験を通して、自分で考え行動できる子ども・友達とかかわり意欲的に遊ぶ子ども・自分の思いや考えを素直に表現できる子ども」として取り組む実践例として、地域の方の協力を得て行うお米づくりの活動を取り上げた。レンゲ摘み、田植え、稲刈り、脱穀、精米、おにぎり、レンゲ種蒔きという 1 年間の体験を子ども達は行い、五感で感じ取り表現をしたことで深い学びを得ることができた。(PP5-6)</p>
<p>その他 保育士・幼稚園教諭養成における情報教育の授業設計の試み</p>	<p>共</p>	<p>平成 30 年 2 月</p>	<p>甲子園短期大学紀要 36</p>	<p>情報化社会となった現在、保育・幼児教育の現場では様々な情報教育機器が導入され、利用されている。こうした現状から、保育士・幼稚園教諭養成において情報教育は重要である。そこで、現場で働く保育士および幼稚園教諭に情報教育機器の利用についてアンケートを実施した。その結果、今後幼児教育が必要とされる動画の編集技術や応用的な文章作成方法について学びたいという意見が多かったため、動画の編集と応用的な文書作成の演習を取り入れ、より実践的な授業計画を試みた。著者：保田洋, 吉井隆, 千原智美</p>
<p>授業アンケートの効果的活用方法の提案</p>	<p>共</p>	<p>平成 30 年 2 月</p>	<p>甲子園短期大学紀要 36</p>	<p>ICT 社会を迎え、幼稚園ではパソコン等を用いた保育実技が可能になり、新たな保育のための教材作成が求められている。今回幼児の興味関心を高め幼児の成長との関連を考慮しながらパソコンを活用して効果的な教材を作成できることを目標に、数あるソフトウェアの中から frimo3 を選択し、実際に簡単な教材を作成しながらその有効性について検討した。アニメーション機能が豊富でかつ時系列的に操作が可能で、また、アクションスクリプトを使って画面コントロールも可能であり、これから保育教材に有効な教材として検討を行った。著者：吉井隆, 保田洋, 千原智美</p>

<p>新型コロナウイルス感染症の流行下における学内代替え実習の現状と課題 —介護実習と教育実習において—</p>	<p>共</p>	<p>令和3年3月 15日</p>	<p>甲子園短期大学紀要 39</p>	<p>新型コロナウイルス感染症により、介護実習は学内授業となり、教育実習は期間が短縮され、残りの期間を学内で補填した授業となった。その経緯と授業内容、今後の課題をまとめ報告した。 著者：木村弘子 千原智美</p>
--	----------	-----------------------	---------------------	--